茨城県水産試験場
平成30年度評価書

令和元年12月

茨城県水産試験場

評価委員会

【様式6】

□総合評価

評価:　A(3．1)	試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせ，質・量の両面において着実に取り組みを実施していると判断できる。

研究員が減少傾向にあるなか，工夫した内部人材育成等により質の高い研究レベルを維持ししつつ、県民からの様々な要望に応えていることを高く評価する。
内水面研究においては，鮎の産卵場造成を県内他の河川でも展開し、中小河川のポンプを使った造成技法の改良等、貢献しており研究発表等も優秀で全国的に広めた功績は大きい。

□項目別評価

ｉ)県民に対して提供する業務

1)試験研究　評価:A

① イワシ，サバ類稚仔漁期の成長履歴及び低次生産に対する成長応答解明研究
マサバはマイワシと同様、資源増大期と推察され、従来の資源評価手法では不確実性、特に加入量評価の不確実性が高い状況となっている。そのような中、本研究は加入量指数を早期に把握することにより不確実性を減らす成果となることが期待される。労力のかけて得た耳石解析データですので、もっといろいろな観点から解析し、より一層、成果を出していただくようお願いする。
サバは本県の重要な資源であり、その漁海況予測において活用できる研究内容として期待したい。また、当初の計画より半年早く資源加入の多寡を評価できる可能性が示されたことは高く評価したい。

2)相談業務　評価:A

数値目標に対する実績など自己評価は妥当である。

3)成果の伝達普及・指導業務　評価:A

衛生管理マニュアルの実施指導について数値目標は達成していないが、代替措置が執られており、質的には十分クリアしている。項目全体としては高く評価したい。福島では依然として試験操業が続いており、また、未だに本県産魚介類の輸入を規制している国があることから、安全性確保のため放射性部質のモニタリング調査の継続をお願いしたい。
外来魚対策が急がれる県内において、コクチバス等外来魚の侵入状況の把握や漁協への駆除指導などを幾度も行っている点は高く評価できる。外来魚問題への対策は、一般の人に知ってもらう啓発が最も大切であるとされているため、今後とも多方面への成果の伝達普及・指導業務を展開されることを望む。春先の稚鮎遡上調査に始まり、鮎の秋の産卵場造成、そして流下仔魚調査等に少ない要員で対応し高く評価する。

4)漁業無線業務　評価:A

無線有資格者の確保に向け、高校へのリクルート活動により採用予定となっており、その対応を評価する。

5)外部人材育成　評価:A

数値目標は毎年度、慎重に設定する必要がある。事後にアンケートによる満足度調査を実施し、次に向けた改善方策を検討することが望ましい。親子で学ぶ水産，海洋教室は有効であり回数増加検討余地がある。

6)知的財産の取得・活用　評価:A

冷凍生シラスは高い評価を得ており、新たな製品の開発を期待したい。魚介類養殖技術等の知見の活用と情報管理の徹底は評価する。

7）広報・普及啓発

評価：A

コクチバス等の外来魚対策のように、茨城県水産試験場が積極的な取り組みを行っているのに、それがあまり他地域に伝わっていないこともあり，これまでの適切な取り組みを効果的に普及啓発することが必要である。視察者の受け入れは有効，各地フェア参加等努力している。 数値目標に対する実績など自己評価は妥当である。

ⅱ）業務の質的向上，効率化のために実施する方策

1）全体マネジメント

評価：A

次期中期運営計画策定に向けて、引き続き、県内水産業の課題抽出と人員体制を考慮した課題の順位付けに着手していただきたい。数値目標に対する実績など自己評価は妥当である。

2）県民ニーズの把握

評価：A

漁海況予報の精度向上により加工業者の信頼度も伸長している。数値目標に対する実績など自己評価は妥当である。

3）他機関との連携

評価：A

温暖化による水温上昇等他機関との連携が重要。数値目標に対する実績など自己評価は妥当である。

4）外部資金の獲得方針

評価：A

県財政が厳しい中で、多くの外部資金を獲得している点は、高く評価できる。「あさなぎ」の代船として竣工された「せんかい」について今後の活躍を期待したい。我が国周辺漁業資源調査について拡大してほしい。

5）内部人材育成

評価：A

研究員数が減少傾向にある中で、計画を超えるをプチゼミや場内ゼミを実施し,また各種研修会に参加するなど、研究しやすい環境の整備に努めている点は高く評価できる。

【様式7】整理表（項目別評価）　　茨城県水産試験場

評価項目（年度実施計画）		研究所等の自己評価		評価委員会評価	
		評価	計画達成の状況	評価	評価における特記事項
ｉ）県民に対して提供する業務	1)試験研究	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 1　耳石解析によるイワシサバ類稚仔漁期の成長履歴及び低次生産に対する成長応答解明研究 　マサバ稚仔魚の成長と餌料密度の関係を調べ，体長9mmまでは水温環境が体長11mm以上では餌料密度が，生残りに影響を与えていることを解明し，また仔稚魚期の成長が早いほど生残りも高いとの結果が得られた。これらの結果から早い段階で新規加入年級群の加入水準を予測するモデルを作成できた。	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成
	2)相談業務	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 随時，漁業者や加工業者の相談やマスコミ，一般県民からの問い合わせに対応した。 ○数値実績　　合計　96件／年 ・加工技術相談(異物混入等)　77件 ・加工技術相談(細菌関係)　3件 ・その他　5件 ・魚病相談　15件	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成
	3)成果の伝達普及・指導業務	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 ①　技術・研究成果の伝達普及 1．技術講習会等の開催 ○数値実績 ・沿岸資源談話会：3回(2/13久慈,2/14はさき,2/18大津) ・加工技術講習会：1回(4/12大津) 2．漁海況情報の発信 ○数値実績 ・漁海況速報：1回／週 ・人工衛星速報及び水産の窓：1回／週 ・フェイスブックによる漁海況等情報発信：81回 ・イワシサバ脂肪測定結果HP公表：27回 3．巡回指導・漁業者活動支援 ○数値実績 ・巡回指導：延べ282日・人／年 ・浜の活力再生プラン(地域浜プラン)指導：16回・地区（8地区×2回） ・第2期浜の活力再生プラン策定指導：15回・地区(5地区×3回) 4．産卵場造成技術の普及・指導 ○数値実績 ・アユ産卵場造成：5漁協　計　23,206 ㎡ ・オイカワ等産卵場造成技術開発及び指導（桜川，涸沼川で実施）： 2漁協　計　326㎡ 合計　6漁協(大涸沼漁協は重複），23,532㎡ （トピックス） ・アユ産卵場造成を契機に久慈川漁協が外部資金を獲得し，水産試験場や遊漁者団体，土地改良区，大学等と連携し，辰の口堰魚道の機能改善を実施。 5．外来魚対策 ○数値実績 ・浸潤状況調査：11回 ・駆除マニュアルに基づく指導：3回 6．養魚・増殖技術指導 ・ワカサギ水槽内自然産卵法の導入・指導を実施。　霞ヶ浦漁協26回 （トピックス） 霞ヶ浦漁協で新規導入したワカサギ自然採卵について，指導を行った結果，湖内向け採卵計画3000万粒に対し，10,334万粒採卵できた。あわせて県外向け採卵も指導し，3000万粒の追加採卵を行うことが出来た。 （トピックス）	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成

			世界湖沼会議の第1分科会において，「霞ヶ浦のワカサギ資源変動要因の抽出及び早期資源評価モデルについて」を発表した。また同会議の涸沼におけるエクステーションで，「涸沼におけるヤマトシジミについて」パネル展示を行った。 ② 漁場環境保全・魚類防疫業務 1．霞ヶ浦北浦酸素情報 例年より早い6月に低酸素状況が確認されたため，早期に酸素情報公開を開始し9月末まで実施した。これにより養殖業者に溶存酸素情報を提供し，斃死被害の未然防止を図った。 ○数値実績 ・6月：19回，7月：21 回，8月：23回，9月：18回　　合計：81回 ・低酸素情報：4回 2．貝毒プランクトンモニタリング調査 麻痺性及び下痢性貝毒の原因プランクトンの検査を実施し，毒化兆候の早期把握に努めた。 ○数値実績(実施時期：4～9月，2～3月) ・麻痺性：8 回 ・下痢性：11回 3．大型クラゲ来遊状況調査 本県沖合のエチゼンクラゲの来遊状況を調査船いばらき丸で調査した。大型クラゲは確認されなかった。 ○数値実績 ・1航海（10月）のほか，11月の海洋観測時に目視調査を実施した。 4．魚病相談対応 魚病の蔓延防止のため，業者から依頼のあった魚病相談に適宜対応した。 ・魚病相談件数：18件(再掲) ③ 衛生・鮮度管理技術指導 1．衛生管理マニュアルの実施指導 ・那珂湊漁協の衛生管理に配慮した漁獲物選別台の導入支援を行った。 ・平潟漁協の市場衛生管理啓発ポスターの作成支援を行った。 ・漁協が主催する衛生管理講習会において，衛生指導を行った(2地 2．水産物安全モニタリング調査 ・水産物の安全確保のため，調査船による検体採集，前処理，分析機関への検体送付を行った。 ・調査船採集日数：19日，検体数：60魚種：430種		
	4)漁業無線業務	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 1．定時放送 ・気象台発表の海上気象予報や航行警報情報を漁船及びプレジャー船に迅速に提供した。 ・船舶の常陸那珂港への入出港情報や那珂湊漁港水門情報を漁船に提供し，操業の安全確保を図った。 ○数値実績 ・気象・航行警報情報提供：10回／日 2．みなしGM通信 ・みなしGM船の出入港，操業，漁況，行動情報などの連絡を行っ ○数値実績 3回／日以上(最大7回／日) 3．所属船の緊急事態への対応 ・漁船との情事通信体制，漁船間通信，出入港情報の常時聴取を行った。 ・地震・津波や座礁・転落等の緊急時の受信と海上保安部等への通報等に24時間体制で対応した。 ・北朝鮮ミサイル発射に伴うJアラートに対応した迅速な情報発信のために，水産庁の補助で漁業安全情報伝達迅速化装置(27MHZ送受信機1台，27MHZ送受信機1台）が整備された。	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成
	5)外部人材育成	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 出前講座，研修会の開催，大学生の受入れ等により外部人材育成に取り組んだ。	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成

			○数値実績 ・夏休みいばらき水産・海洋教室：1回(7/24～7/26，延べ55組114名) ・加工体験講習会：1回（1/26カマボコ製造） ・水産物取扱講習会：1回　大津漁協職員，漁業者 「神経絞め」 ・海洋高校出前講座：1回， 　海洋食品科1年生25名：「茨城県の漁業とヒラメについて」(3/18) ・底曳網漁業後継者等意見交換会：1回　底曳後継者5名「底曳き資源状況及　び水揚物の品質管理」(8/24) ・日立水産業探検少年団：1回 小5～中3　20名 「茨城の海と漁業について」(5/20) ・城西大学付属高校：1回　15名「耳石の観察」（8/20） ・さがんぼ恩返し隊　栃木県小学生　20名 「茨城の海と漁業について」(8/17)		
	6)知的財産の取得・活用	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 ・生食用凍結生シラスの新規生産希望漁協の動向，他県の類似製品の生産状況について，「海の輝き」生産関係者で情報共有を行うとともに，情報管理の徹底を図った。 4漁協4回	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成
	7)広報・普及啓発	A	○質・量の両面において優れたパフォーマンスを実現 1．情報誌の発行，調査情報の広報 ○数値実績 ・研究報告　　：0件／年 ・水産試験場試験研究報告以外の報告：6件 　水産海洋研究，東北ブロック底魚研究，水産海洋連絡会報他 ・全国研究発表大会等での発表実績：11件 ・ワカサギ情報：4回／年（7/3，7/4，7/13，7/21） ・アユ遡上情報：H30年度：13回（4～5月9回，H31年3月4回） ・アユ解禁日情報：2回 ・霞ヶ浦北浦湖沼観測結果情報：22回 ・主要魚種の生態と資源リニューアル：25種 2．視察者の受入れ ・シンガポール6名　(5/31) ・城西高校科学部：16名(8/20) ・JAICAカガーナ，インドネシア他：9名(9/25) ・島根県水産技術センター：2名（3/12） 3．各種イベントへの参加 ○数値実績 ・移動水産試験場：6回 　大洗魚市場シラスまつり(6/10) 　ひたちなか市魚食普及講演会(8/24) 　大洗魚市場ホッキまつり(10/14) 　みなと産業祭(10/21) 　ひたちなか産業交流フェアー(11/3～4) 　青少年科学の祭典日立大会(12/2) ・パネル展示：2回 　県庁2F県政広報コーナー(7/31～8/7) 　茨城県立図書館ギャラリー(7/28～8/28)	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成
ii）業務の質的向上、効率化	1)全体マネジメント	AA	○質・量の両面において優れたパフォーマンスを実現 1．水試業務全体のマネジメント ・定例部長会（本場1回/週，支場合同1回/月）等で場全体の業務の進捗管理や課題の共有を図った。 ・調査船や場内施設，機器等を適切に維持管理した。 2．研究活動のマネジメント （1）研究等の評価 ・計画ゼミ，中間報告会，成果報告会を計画どおり各1回開催し，業務の進捗管理を行った。 ○数値実績 　3回(計画・中間・成果ゼミ) （2）評価委員会の開催 ○数値実績	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成

			・内部評価委員会:2回(12月, 3月) ・機関評価委員会:1回(8月) (3)行政との情報共有 ・水産部局打合せ等での行政との情報共有:5回 ・その他の情報共有 ワカサギ資源打合せ:1回 市場調査情報の共有:21回 霞ヶ浦における水産業振興に係る打合せ:3回		
		2)県民ニーズの把握	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 1. 研究ニーズの把握と研究課題の設定 ・普及員による巡回指導や各種会議に出席し, ニーズの把握に努めるとともに要望等に対応した。 ○数値実績 ・沿岸資源談話会:3回(再掲) ・巡回指導:延べ282日・人(再掲) ・水産部局打合せ等での行政との情報共有:5回(再掲)	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成
		3)他機関との連携	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 1. 共同研究・連携の推進 全国場長会や国, 大学, 他県の研究機関が参加する会議等を通じて情報収集や技術習得に努めた。 試験研究の高度化, 効率化のため, 大学や水研等との共同研究を実施した。 ○数値実績 ・共同研究課題数:6課題 ・県立食品加工関係機関連絡会議:1回 ・大洗水族館への展示用生物提供:8回 ・県立自然博物館への展示用生物提供:4回 ・霞ヶ浦環境科学センターとのプランクトン分析連携:2回 ・水産工学研究所との共同・連携協議:2回	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成
		4)外部資金の獲得方針	A	○質・量の両面において着実に取り組みを実施 ・国庫補助, 受託研究件数:7課題	A	○質・量両面において概ね平成30年度計画を達成
		5)内部人材育成	AA	○質・量の両面において優れたパフォーマンスを実現 研究員・職員の資質及び能力の向上を図るため, ゼミや各種研修会等に参加した。 ○数値実績 ・成果発表件数:11件 ・場内ゼミ:30回／年 (一般ゼミ27回, プチゼミ3回) ・技術研修参加:14人／年 (技術研修内訳) 海況解析技術に関わる研修会 :1人 養殖衛生管理技術者養成 本科基礎コース研修 :1人 平成30年度魚類防疫士技術認定試験:1人 平成30年度農林水産関係中堅研究者研修:1名 SNS運用研修会: 1人 第1回水産業普及指導員研修会 :1人 東北・北海道ブロック水産業改良普及員集団研修会 :2人 有害プランクトン同定研修会:1人 小型浮魚類年齢査定研修会:1人 資源管理研修会:2人 計量魚探勉強会:1人 数理統計短期集合研修:1人 ・その他の研修 (場内技術習得研修会) K値, キサンチン測定研修:6人 シラウオ横川吸虫検査研修:4人 一般生菌大腸菌検査研修:2人	A	○質・量両面において平成30年度計画で優れたパフォーマンスを実現

			（職員職務能力・資質向上研修） メンタルヘルス研修：1人（県庁） メンタルヘルス研修：33人（場内） イクボス研修：1人（8月，県庁） 情報セキュリティー研修：2回，各1人 ひたちなか署による交通安全研修：1回，場員36名 公務員倫理研修：28名		